

(熊本県立小国高等) 学校 令和 5 年度 (2 0 2 3 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育基本法の理念及び「令和5年度（2023年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」と本校の三綱領「尚志・勉学・自主」の具現化を図る。基本的人権の尊重に基づき、深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた最適な指導・支援を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和のとれた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>◎テーマ 『挑戦』～やり抜く力・諦めない心～</p> <p>◎3つの重点</p> <p>(1)生徒一人一人の適性、教育的ニーズに応じた指導・支援の実践</p> <p>(2)スクール・ミッションを踏まえ、次の10年に向けた教育の充実</p> <p>(3)COREハイスクール、学力向上、E-Assessment等の研究指定校の推進</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安心・安全な学校環境づくり	災害時における生徒の安全確保	防災教育を通して防災意識を高め、災害の危機を理解して自らの安全を確保する行動や日常の備えができるようにする。	定期的に防災だよりを発行し防災への理解と意識を高める。発生時間、場所を予告せずに避難訓練を実施し自主的に判断し行動する力を養う。実際の災害に備えて備蓄物資を学校に保管する。	B	定期的な防災だよりの発行や危機予測力を高める避難訓練、緊急地震速報による訓練を実施し、防災意識が高まった。非常用備蓄物資の提出は学年によりばらつきがあり、育志会総会等で保護者への啓発や教職員の意識を高め、防災対策・防災教育を継続していく。
		保健教育・教育相談体制の充実	思春期の心身の課題に対して、専門的立場の方からの学びの機会を設け、望ましい意志決定・行動がとれるようにする。	各学年の実態に応じたストレス対処教育、全校生徒に向けた性教育、薬物乱用防止教育について、専門的立場の方からの講話を実施する。生徒の心身の不調等について、SCやSSWなどと連携し支援につなげる。	B	1年生へSCによるストレス対処教育を実施。各講演会も専門の講師を招き実施できた。特に性教育講演会では生徒の実態を加味し「デートDV」をテーマに講師を選定。引き続き生徒の実態に合った講師選定が課題である。心の不調がある生徒へはSC利用を促し、面談に繋げている。今後もSC等専門職との適切な連携に努め、より一層の活用を目指す。
	開かれた学校づくり	積極的な情報の発信	小国高校の今を伝えるため定期的にホームページを更新するとともに、学期に1回小国高通信を発行する。地域のラジオ放送やケーブルテレビで学校の様子を伝える。	部活動や校内行事に関する記事を募り、ホームページを定期的に更新する。小国高通信を作成し、近隣の学校に配付する。地域のメディアに学校の行事等を伝えるため情報を提供する。	B	総合的な探究の時間にまつわるページを新設したり、校内行事実施時に各種メディアの取材を依頼したりすることにより、校内外での生徒の活動の様子が外部に発信されるように努めた。更新頻度や記事の内容の偏りについて、今後改善の余地があると思われる。
		保護者や地域の方との交流の活性化	学校行事への保護者及び地域の方の参加	育志会役員会やホームページ、地元メディア及び		安心安全メールやすぐー、小国高通信、草泊り、地元メディアへの

			者を増やす。	小国高通信を活用して行事の紹介や案内を行う。また、今年度は各行事において保護者や地域の方も参加しやすいよう積極的に行事への参加案内を行う。	B	情報提供等によって、学校行事等の地域・保護者への情報発信を行った。
学校経営	業務改善・働き方改革	勤務環境等の整備	行事の精選、見直し等を検討するとともに、相互信頼に基ついた心身ともに安心感のある職場、休みを取りやすい雰囲気づくりを実現する。	勤務実態調査、学校自己評価、管理職面談等による意見交換を通して適宜改善を図る。また、定時退勤を奨励する日を最低月に1回は設ける。	B	一部の校務分掌を見直すなど適宜業務の合理化に取り組んだ。また定時退勤日を設け働き方改革への意識づけを図った。小規模校ゆえ職員一人当たりの業務が過多になりがちであり、新型コロナウイルス感染症5類移行による行事再開に伴って負担が増える面もあるため、今後一層の業務改善に努めたい。
学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現	職員の授業力向上に向けた取組	授業の構成、指示の仕方、ICTの活用等について教科を越えて意見交換をし、学校全体で授業力向上を目指す雰囲気づくりをする。	公開授業週間において職員間で授業見学を行うことにより、授業についての意見交換やアンケートを行う。	B	公開授業週間は職員間でも授業を見学し合う“I-skill week”として、見学した授業に対してアンケートを記入及び、提出してもらった。アンケートは授業者にも渡し、教科を横断した意見交換をすることができた。
		観点別評価方法の確立	各教科で観点別評価を実施するとともに、教科を越えて情報を共有することで、より良い評価方法を確立する。	観点別評価についての職員研修を実施し、情報交換・意見交換の場を作り全職員で観点別評価について理解を深める機会を作る。	B	学校として一元化した観点別評価の在り方を提示することができた。学期毎の評価を年間で統一したファイルにできるように、継続して検討・協議を重ねていきたい。
	家庭学習時間の確保と習慣化	家庭学習に対する意欲向上と習慣化	家庭学習時間調査においてコース別に定めている生徒の目標学習時間到達割合を、60%以上にする。	Google classroomを活用した調査を行う。生徒の家庭学習時間の個票をもとに担任や教科担当者が面談等に活用することで、生徒への声かけや指導を促進する。	B	Google classroomを活用し生徒によるスムーズな回答が得られている。家庭学習時間調査における生徒の目標学習時間到達割合は78.8%で、目標を達成できた。目標時間の到達だけでなく、家庭での学習の意識・意欲を高めさせる更なる工夫が必要であると考えられる。
キャリア教育(進路指導)	3年間を見通したキャリア教育の推進	個に応じた進路指導の充実	スタディサプリの活用の推進を継続するとともに、1・2学年進学希望者を対象とした講座(OT)を開講する。	進路指導部会を充実させるとともに、各学年、各校務分掌における成果や課題を共有する体制を整える。また、スタディサプリア進学OTの効果的な運用を目指す。	B	生徒、教員向けにスタディサプリア活用ガイドンスを実施するなどして、3年生を中心に1学期の活用が頻繁だった。一方で、自主的かつ継続的な活用には課題が残る。進路指導部会の充実や進学OTは、概ね満足できるが、改善点を集約したので、次年度に反映させたい。

		社会へ貢献できる生徒の育成	「キャリアパスポート」を利用した活動を推進し、「小国高校で身につけてほしい力」を意識して生活することができる生徒を増加させる。	キャリアパスポート作成計画に沿って、生徒が学びを記録できるよう、各学年・担任との連携や支援に取り組む。	C	行事に対する事前・事後の指導に課題があると思う。目的を明確にすることや振り返りにより生徒が自分事として捉える手段としてのキャリアパスポートの活用に工夫を凝らしたい。
	進路目標の実現	教員の進路指導力の向上	教員にアンケートを実施し、生徒や保護者に対して必要な進路情報を提供できる教員の割合を全体の25%以上にする。	職員の進路指導力向上のために研修機会を提供する。	A	学校評価アンケート（生徒）における「進路に関して先生は相談によく応じてくれる。またアドバイスは適切である。」という項目において、99.1%の生徒がそう思うと回答した。
		3年生全員の進路実現の達成	全職員が関わる進路指導を実践する。	面接指導や小論文指導について、全職員で指導を行う。	B	一部未定の生徒はいるものの全体的には概ね第一志望への内定や合格を掴み取っている。ここに至るまでに全職員が生徒の進路実現にかかわり指導をしており、今後もこの体制を維持・継続したい。一方で低学年時のキャリア教育に課題を見出したため、次年度に向けて改善したい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	コロナ禍後の生活様式とマナー、学校生活の指導の徹底	コロナ禍後の生活様式や社会生活に伴い、差別を許さない姿勢や基本的な生活習慣について指導を徹底する。	集会で講話を実施するとともに、学年と連携してコロナ禍後の個性を尊重する生活様式や基本的な生活習慣の指導を徹底する。	A	5月に脱コロナ禍となり、日常を取り戻しつつあるが、引き続き偏見や差別のないよう、状況に応じた周知をしている。また、コロナが完全になくなったわけではないので、保健部と連携し、生徒の生活状況把握や対策を講じている。定期的に感染者は出ているものの大きな感染拡大には至っていない。今後も状況に応じた対策をしていく必要がある。
		予防指導の徹底	特別指導につながる事例や事件、事故などの危機を予測し、声かけや事前指導の機会を定期的に設ける。	生徒指導部職員を中心に登校指導を実施し、継続的に声かけを行う。生徒の現状に合わせ、長期休暇前や行事前後に内容を厳選して集会で講話等を行う。	A	今年度は特別指導が0件である。今後も啓発を続け、生徒が大きな事件や事故にあわないように事前指導を心がける。校則を定期的に見直すことや各学年、担任と連携した指導を中心とした取り組みを継続して取り組んでいく。

	交通道德に関する意識の高揚	交通事故・交通違反指導の徹底	重傷に繋がる交通事故「0」、交通違反「0」	交通安全教室を開催し、交通委員が定期的に交通安全について呼びかける。交通関連情報を職員に周知することで指導の統一を図る。	B	現在のところ今年度の交通事故、交通違反は0件である。小国警察署の方を講師として招き、交通教室を実施した。最近の交通事情に応じた講話をしていただき、生徒への交通安全への意識向上を促した。また、自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務化となり、生徒の実状に応じ、地域と連携した新しいルール作りも今後の課題である。
人権教育の推進	人権教育に対する理解の深化	地域の人権関係行事への参加	小国郷人権啓発フェスティバルやきよら人権デーに向けて人権作文作成を1年生全員で取り組む。小国町人権子ども会における教科学習会や人権学習の充実を図る。	フェスティバルに関する事前指導と振り返りを実施し、取組の充実を図る。小国町人権子ども会では教科学習会の取組以外にも熊本県人権子ども集会へ参加するなど取組の充実を図る。	A	小国町人権子ども会における教科学習会は昨年度とほぼ同数実施できたが、参加する職員が大きく増えた。小国町人権啓発フェスティバル、きよら人権デーに向け1年生全員が人権作文に取り組み代表生徒が発表を行った。また、熊本県人権子ども集会がオンデマンド配信になったことを受けて、2年生全員で視聴することができた。
		人権教育に取り組む姿勢の捉え直し	教師が自身の姿勢を言葉で表現し発信できるようになる。	人権に関する研修会等に全職員1回以上参加する。人権教育実践報告(レポート)を作成する。校内研修では、レポート等について相互に意見を交換することで人権教育に関する理解を深める。	A	今年度は、人権に関する研修会等全員1回以上参加することができた。対外的な取り組み及び校内研修を通じて、人権教育に関する理解を深めることができた。
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情と自己有用感を高める	生徒に命の大切さを再認識させ、自身の大切さと役割に気づかせる。心のアンケートにおいて「誰かの役に立っていることがある」、「自信のあることや自慢できることがある」と答える生徒を昨年度の県平均以上	スクールカウンセラー講話、体育大会、小国高校フェスティバル等の諸活動を通じて生徒に様々な体験を行わせる。実践毎にアンケートやポートフォリオ等を活用し、自身を見つめ直す機会を持ち、自信に繋げる。	B	昨年度の「誰かの役に立っていることが少しある」、「自信のあることや自慢できることがある」と答えた生徒は県の平均を上回る結果となった。しかし、「誰かの役に立っていることがある」と回答した生徒が若干県の平均を下回り課題が残った。

			にする。			
いじめの防止等	いじめの未然防止	人権意識を高め、自身の行動がどのような影響を及ぼすかといった想像力を育む	いじめる側についての問題、集団の中に属する生徒についての問題、人の痛みがわかるようになること等について生徒に理解させる。	人権教育LHRを計画的に実施する。人権週間に合わせた人権朝読書を行い、人権作文、標語を作成する。人権係を中心として、クラスへの呼びかけを充実させる。	A	全校生徒から募集した人権標語を100点選出し、小国町人権啓発フェスティバルで展示したり、隣保館が作成する人権カレンダーに掲載した。学校全体で人権意識を高める取り組みができた。
	いじめの早期発見といじめ事案への対応	アンケート調査の実施と事後対応	いじめ事案については解消率100%を達成する。	各学期1回いじめアンケート(心のアンケート)を実施する。いじめ事案が発生した場合、速やかに対応する。	B	計画通り学期1回の実施ができた。いじめ事案に対し、早期の解決に向け組織的に取り組むことができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域協働活動の推進	総合的な探究の時間の活用	地元のことを学び、考え、伝えるための「小国郷を知る」講座に加えて、COREハイスクール・ネットワーク構想において、他地域の高校と連携した課題解決型の学習活動を行う。	地域の魅力を引き出し、課題を解決するための具体的方策を両町役場及び地域の有識者等と連携して提案する。また、県外を含めた他地域の生徒と意見交換を重ね、探究活動の深化を図る。	A	尚志探究における新たな取組として(地域の有識者による講演会、ランチミーティング、小国郷町歩き、尚志校内発表会等)を実践し1・2年ともにコミュニケーション能力をはじめとした資質・能力の育成に繋がる充実した活動を行えた。その結果、生徒のアイデアから「OGUNIギフト」が誕生し、地域活性化に繋がる今後の小国高校の総探の柱となる画期的な取組が提案できた。
		地域団体との協働活動の実践	ボランティア活動に積極的に参加する。高齢者支援や障がい者支援など、地域で必要とされている活動に全校生徒の6割以上が取り組む。	両町の社会福祉協議会等と連携して、高齢者支援や障がい者支援、子育て支援、美化活動などに参加し福祉活動に対する生徒の理解を深め、積極的に携わる姿勢を育てる。	B	ボランティア学習会、子どもデイサービスボランティア、小中学校生への学習支援、手話学習会等、1月末時点で参加者延べ数は102名で延べ数としては全校生徒の約82.9%と昨年度を若干下回った。
	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	本校に対する要望等を聴取し、本校の役割を明確にして地域からの信頼と相互理解に基づく関係を構築する。	学校運営及び地域貢献に生かすために、学校運営協議会だけでなく、授業参観や学校行事においても委員を中心とした地域の方と意見交換を行う。	B	授業参観に伴う意見交換や指定を受けている文部科学省・県教育委員会の研究事業に係る地域との探究活動の協働など、様々な形で支援を受け地域とともにある学校づくりに資した。

中高一貫教育の推進	中高一貫教育の充実	三校合同の交流活動の充実（交流授業や生徒交流）	交流授業を8回以上実施する。 コロナ禍により実施できなかった生徒交流を実現する。	三校の生徒が集う芸術鑑賞の日程の中や、体験入学、探究活動報告会など中学生と交流の場を設定する。	B	交流授業は目標回数を達成できている。生徒の交流を行う計画について、アイデアや検討案はあるものの、双方の日程調整や送迎手配など課題が多かった。体験入学において、3年生と高校生との交流の場としてグループワーク等を実施することができ、協働して地域課題について考えられた。今後も生徒交流の在り方を検討していきたい。
COREハイスクール・ネットワーク事業	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想の推進	各構成校、教育センター、地域との連携・協働実践	主体的、探究的に学ぶ姿勢や能力を身につけるとともに、進路実現に向けた学力、教養を養成する。	ICTを活用した遠隔授業、地域の教育資源を活用した探究的な学びを、構成校と協力しながら円滑に実践する。	A	昨年度以上に、生徒にとって有意義な取組となった。遠隔授業では、発展英語、声楽が追加され、切磋琢磨しながら学習することで学習意欲の向上につながった。また、オンライン探究では、牛深高校と連携を行い、牛深のイルミネーションイベントに本校生の作品を出品できた。

4 学校関係者評価

【昨年度】

- 全体的にバランスの取れた良い教育活動を行えている。計画に沿った学校運営が適切に実践されている印象を持っている。
- この1年間補導される生徒等もなく、非常に上手く指導をされている印象。地元ケーブルテレビを活用した積極的な情報提供も評価できる。今後も、新たな視点からの取組も行いながら地域の方々に「伝わる」情報提供をお願いしたい。
- 今の本校は荒れた様子も全くなく大変雰囲気が良い。罰せられるからではなく主体的に校則を守るように促されている。
- 家庭学習の少なさが例年指摘されている。教員は異動もあるので引継ぎをしっかりと行いながら、継続的に取り組んでほしい。
- 総合的な探究の時間の成果発表会を見たが、非常に立派だったので驚いた。地元ケーブルテレビで特番を組んで紹介してもらったらどうか。生徒が頑張っている姿を手軽に見てもらえ、引いては本校の生徒募集にもつながると思う。
- 生徒のほとんどが地元の小国中学校、南小国中学校の出身であり家庭学習や学校評価という課題やテーマについては中高で一貫している。(連携型中高一貫教育でもあり)今後一層の連携が必要かと思う。
- アンケートの結果で、SNSやスマートフォンの適切な利用という項目が生徒も保護者も高い。現在、タブレット端末も含めマナー面等で問題になることが多いが、素晴らしいことだと思う。

5 総合評価

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い様々な教育活動が以前の形に戻ったが、変化に応じつつも教育目標の達成に向けて真摯に取り組んだ。自己評価総括表では評価がAとBの項目が多く、また学校運営協議会委員の方々からも全体的に高い評価をいただき、概ね目標を達成できたと思う。
- 本校の魅力を発信するため、地域のFMラジオやケーブルテレビ局の協力を得て、広報活動に力を入れた。定期的に番組が放送され、本校の情報と魅力を発信することができ、地域の方から好意的な評価をいただいている。
- 今年度は文部科学省指定のCOREハイスクール・ネットワーク構想事業の最終年度、また県教育委員会の学力向上研究指定事業の指定校ということもあり、一層の総合的な探究の時間（地域課題研究）の充実を図った。特に最終の研究成果発表会は地域の方々に公開し、高い評価をいただいた。
- 進路指導では、国公立大学をはじめとする進学、公務員等を含む就職についても、ほぼ全員の進路決定を達成するなど、生徒の希望及び保護者の期待に応える成果が出せたと感じている。
- 生徒指導では、地元の警察署の協力を得て交通安全教室を開催するなど、交通指導に力を入れた。交通事故及び交通違反は0件で目標を達成することができた。また、薬物乱用防止に係る講演も学校薬剤師との連携で実施し、薬物の危険性に係る啓発を図ることができた。

○学校評価アンケートの結果から、本校に対する生徒及び保護者の評価は概ね高く、期待されていることを感じる。今後も教育活動の更なる充実を図り、本校の存在価値を高める取組を引き続き行う。

6 次年度への課題・改善方策

○地域に根ざした、地元から期待される高校であり続けるために、今後も地域と連携した取組を継続、発展させて本校の更なる魅力化を図りたい。特に、今年度一層の充実を図ることができている総合的な探究の時間の地域課題研究等の取組については、地域のコーディネーターの方や地元企業、行政機関等の方々の御助力も引き続き得ながら更なる発展を目指していきたい。

○新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い様々な教育活動が以前の形に戻る中、時期によってはやや立て込んだ印象もある。1年間を俯瞰しながら必要な整理等を検討していきたい。

○学校の魅力、情報発信については鋭意取組んでいるが、地域からは更なる発信を期待する声も聞かれる。地域の方々の意見を参考にしながら、現在の取組の更なる充実、新たな工夫を進めていきたい。

○各校務分掌で、ICTの積極的な活用による業務の効率化について検討・工夫をしていきたい。

○中高一貫教育については、合同の芸術鑑賞会や体験入学等、充実した時間を過ごすことができたが、まだ様々に連携を工夫できる部分があると思われる。来年度の取組が充実するように準備をしていきたい。